74 新破天荒

令和四年度より
創刊
第 8 3 号

□までマジック○ あなたはなにを思い描くでしょう

二学期も折り返し。気付けば卒業式までも早くも三ヶ月と迫りました。日数にすれば一二〇日なので、まだまだ多く感じるでしょうが、実際に全員が学校に来る日数は五〇日弱。そのうち二〇日以上は午前中授業や式だけと、あっという間に過ぎていく日々となります。

「新破天荒」も最大五回の配信予定となりました。感傷に浸っても仕方ないですが、残りわずかな南高生活を「充実」させるのか、想い出に「浸る」のか、はたまた「後悔の念」とともに、何かの「せいに」にして終わりを迎えるのか。

いずれにしても、「物理的」なその時間は皆さんに平等に与えられ、平等に減っていきます。

さて、私は何を思い、何を感じながらその時間を「過ごした」ということが、将来言えるでしょうか。

立場上、「個々」の達成感の評価は後の話となり、常に「全体」の責任の所在を受け止めて、毎日を過ごす日々です。「誰」のせいでもない。任された自分の日々の成果が「いま」であることは、痛感をしております。ただ、ここは「通過点」であり、「終わり」ではない。そう思い行動しなければ、「夢」もない。

今の「辛さ」を「幸せ」に感じることができるような「努力」を、自分にも課した日々にしたいものです。

ところで、皆さんの「今の一番」は何ですか？

・四月からの行き先を決めること

・自分の未来の夢のために

四月に立つスタートラインを目指すこと

・自分の可能性を

まだまだ拡げること

・すでに一番は学校にない

他にもあるとは思いますが、七十四回生の「いま」から感じることは、大半がこのいずれかです。。

何度も言いますが、皆さんはほぼ「成功体験」しかない、これまでの「人生」です。

「失敗」は「悪」のように感じていますが、社会において分かり切っていることは

成功はグラウンドの土の粒

であり、大半は

失敗という盛り土

となります。

では、それらの盛り土はもう役に立つことがないのか。実はその盛り土こそが、色んな可能性や情報をたくさん含んだ

成功の宝

で盛られているものであることに気付いているはずです。

しかし、あらためて「掘り返す」作業は面倒臭い。その「面倒臭さの先送り」が自分に返ってきたときを、人は

後悔

と言う言葉で表現します。。

盛り土の中の宝が見つからなくても、盛り土を崩して「もがいた」人は、後悔ではなくて「納得」をし、次への「もがき」に挑戦し、いつか「達成感」を味わいます。

途中経過の「失敗」を、それらの人は

挑戦

と言う言葉で困難に「チャレンジ」し、「解決のための課題」を発見して、「挑戦」を「継続」するものであることを

学ばせてもらった

私は、幸せだったと思います。

皆さんより「先に生まれた」私たちができること、しなければいけないことは「させること」ではなく「伝える」ことだと信じ、皆さんとは最後まで向かい合いたいと思います。

十一月の予定

三　日(日)　文化の日
四　日(月)　振替休日
五　日(火)　兵庫県津波一斉避難訓練
十二日(火)　教育相談
十五日(金)　人権教育講演会(午後)
十七日(日)　全統共通プレテスト模試
　　校外・希望者
二十三日(土)　勤労感謝の日
二十五日(月)　芸術鑑賞会　アクリエ姫路
二十七日(水)　教育相談
二十八～十二月四日(木)～(水)
　　二学期期末考査

十二月の予定

五　日(木)～
　　午前中授業③④⑤⑥
九　日(月)　ＬＨＲ(４限)
十　日(火)　神戸大学国際交流(午後)
十一日(水)　教育相談
十七日(火)　成績会議
十八日(水)～
　　三者面談(～二十七日)
二十三日(月)　大掃除・ワックス
二十四日(火)　終業式　表彰伝達
二十五～二十六日(水)～(木)
　　共通テスト直前演習
二十七日(金)　仕事納め

一月は四日(金)より仕事始めです。

体育大会結果について

十月一日火曜日好天のもと、姫路市立陸上競技場（通称ウインク陸上競技場）で、若者の集団らしい姿で、エネルギッシュな体育大会が挙行されました。

七十四回生は、およそ三年生らしく、素晴らしい意気込みでスタートダッシュ良く飛び出し、気持ちが空回りしながらゴールにたどり着くという姿を、やり切ったという笑顔とともに見せてくれました。

何よりも、たくさんの笑顔と参加者全員の無事とともに最後の体育大会を終えてくれたことが一番の収穫であったと思います。

以下、三年生に関する結果を掲載させて頂きます。ただし、上位三位までとします。

団順位

一位　赤団
二位　紫団
三位　緑団

クラス順位

敢闘賞　1～5組

個人

男子50m
一位　住本　渉　（4組）

男子走幅跳
二位　村留　太陽（5組）

男子ジャベリック投
一位　長　俊希（2組）
二位　小笠原煌大（4組）
三位　藤本　大翔（1組）

女子ジャベリック投
二位　梶原つかさ（2組）

すべては怪我がなかったことが一番です。

生徒の活躍より

私はこの度、第四十七回ジュニアクラシック音楽コンクールに出場いたしました。

一年生の時に、別のソロコンクールに関西大会に出場して以来、他のどのソロコンクールでも納得のいく良い結果を出すことができなかった中、どんな結果であろうと、これを高校最後の大会にしようと出場したのが、今回の大会でした。

それでも、せめて最後だけでも良い結果を残したいと思い、初心に返って基礎練習から徹底し直し、改めて本気で楽器と向き合いました。

受験勉強との両立や、部活動の後に伴奏者の方と夜遅くまでの練習を繰り返すも、自分の悪い吹き方の癖がなかなか直らなかったり、苦しいこともたくさんありました。

その中でも特にしんどかったのは、その大会に出場している人はほとんど、専属の先生がついているということで、挑戦すると決めたものの私はほぼ独学で練習を積み重ねていたことでした。

先生に、吹き方やニュアンスを教えてもらい演奏のレベルを上げていく人と、ＹｏｕＴｕｂｅだけを頼りに自分で研究する私とのレベルの差は一目瞭然でした。

しかし、独学だからこそ出来ることもあると思い、自分が「こうしたい！」と思った演奏を、最後まで貫き、それが功を奏したのかもしれません。結果、全国大会まで進むことができたので、とても良い経験を積むことができたのではないかと思えました。

幸い、全国大会の前日には、知り合いの音大生にレッスンをしてもらうこともでき、さらにレベルをＵＰできた状態で出場することができ、本当にたくさんのことを学べたコンクールになりました。

この大会を通して、私は「逃げない」ことの大切さを学べたと思います。レッスンを受けていないから周りの人とは違うと言って諦めたくなったときも、言い訳をしてもそれが審査員に伝わることはないし、そもそも「逃げ道」を作ってはいけないと思い、最後まで自分なりに突っ走ったことや、今までの結果が振るわなかったから今回も駄目かもしれないと、思って練習を止めるのではなく、希望を捨てずに努力をすること。

これら全てが受験勉強にも共通することだと思います。今回の大会に臨む中で学んだことを、これからの受験勉強に行かして、「音楽療法士になる」という夢を叶えるためにも、精一杯努力して志望校合格を勝ち取りたいと思います。

（5組　保田　果凜）

何事も

成功に近道なし
失敗・挑戦に無駄はない

自分が感じる日々の当たり前を当たり前に過ごし、当たり前を続けることが，気付けば他人から見ればそれが「当たり前」ではなく、「すごい」と見られる力になるものです。

その途中で、自らの可能性を切り捨ててしまうことは「勿体ない」ものです。

現役生の強さは、かけた労力に対する成果の大きさです。

「やってるのに・・・」

違います。

「まだまだやれる」

皆さんへのお願い

私の願いは,「日々穏やかな生活」を過ごすことにあります。私の想いを,周囲の人に押しつけることではありません。杓子定規に規則を押しつけることも本位ではありません。

本校では、いや、今の教育では数多くの「マナー」、皆さんの「主体性」を信頼して、日々の「心地よい学校生活」を過ごさせる傾向が大変強いです。

私たちが高校時代にもよく言われたことですが、

権利と責任

と言う言葉の意味を、本気で考えて行動していかなければいけません。理由は、その意味を本来「学ぶべき時期、身につけるべきその方法」を知るために、油を差してもらったり、ブレーキをかけてもらっていない、

「Z世代」

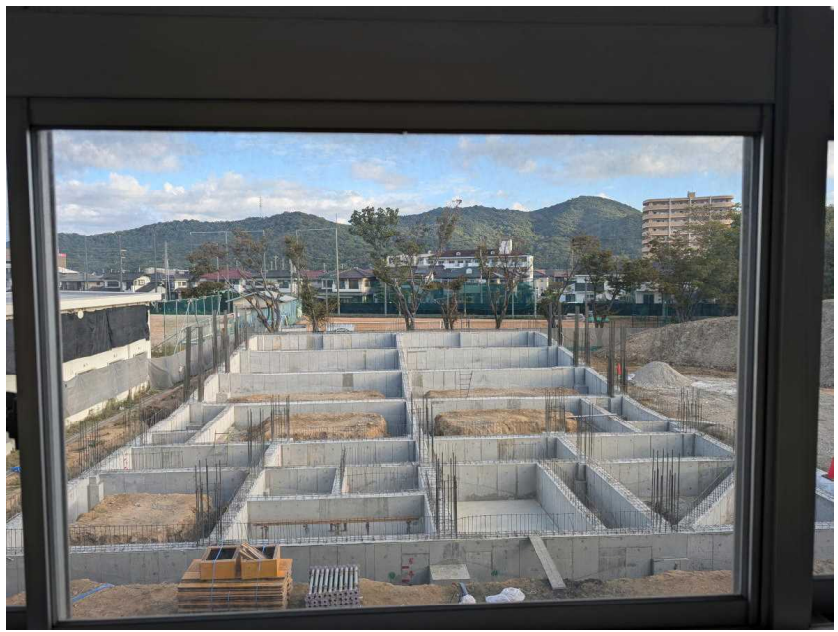
「新Z世代」

が大人社会で生活をする頃を想像するにつけ、世の中はどうなっていくのか。

勝手な心配が徒労に終われば良いのでしょうが、少なくとも「私の基準」ではなく、世の中で、自分の属する社会での「定められた基準」で行動することができるように、いま「所属している」社会での規則に従った行動をやりきって、卒業を迎えてほしいと願っています。

よろしくお願いします。

朝の風景



余白ですみません。理系クラス廊下から垣間見ることができる、来年完成予定の講義棟工事の進行状況です。

何事も、基礎基本の大切さを強く感じることができます。

生徒ともども、私たちも大切にしたいですね。

今月の・・・・の勧め

一　年

五　月　「無駄」
六　月　「諦めない」
七　月　「捨てる」
一学期末　「チャレンジ」
九　月　「さかのぼる」
十　月　「テレビ」
十一月　「大空間」
十二月　「無」
二学期末　「こだわり」
一　月　「信念」
二　月　「探る」
三　月　「自制する」
一年最終　「勇気を探す」

二　年

四　月　「悩むこと」
四　月　2　「本気でぶつかること」
五　月　「この世界の片隅を大切に」
六　月　「主体性」
七　月　「客観性」
一学期末　「ルーティーン」
九　月　「スマホとの向き合い方」
十　月　「詩に触れる」
十一月　「破壊する」
十二月　「想いを再生する」
2学期末　「夢を目に触れるようにする」
一　月　「アナログ」
二　月　「きっかけ」
三　月　「一度諦める」
二年最終　「失敗の感情で終わらない」

三　年

四　月　「思うだけじゃ駄目」
五　月　「目先の失敗に気付く」
六　月　「いつか報われる」
七　月　「いつもと違う努力」
一学期末　「してやりたい」
九　月　ごめんなさい
十　月　「プリテンド　pretend 」
十一月　「アピール 」

例えば、受験の権利を得た人は、合格が確定したと思っていませんか。校内の闘いに克つ＝対外的な闘いに勝つではなく、対外的な闘いの始まりであることが理解できているでしょうか。

高校入試とは全く異なりますが、多くの人は合格した気になって、謙虚な自分がなくなっていることを危惧するばかりです。結果が不調になることが大半であることは、過去の入試結果を見れば理解しているはずなのに、自分が不調の結果を目にすると、「この世の終わり」のように自分の歩みを止めます。

そんな厳しい戦いに自らチャレンジしたことを、ちゃんと理解して下さい。がむしゃらに自分の武器になるものを遠慮せずアピールして下さい。

人と同じことを表現しても、突っ込まれることもなければ、ほどよく相手にされることなく、流されて終わります。「正しい」ことを言うよりも、「不意の反応」に、相手の興味を引く材料があります。

自分からアピールすることには、沢山のぼろが隠れていますが、相手に振られた反応にこそ、相手の心を激しく動かすものがあることを、自分自身の経験で語らせて下さい。

信じる信じないは皆さんの中にある。その最後の判断に「間違い」とは言えないでしょう。

今月の勇気

先月末に勇気をくれた卒業生です。

いずれも陸上競技部を中途退部し、それ以降高校時代には私と会話することを躊躇っていた二人です。

大学時代の困難にぶち当たったとき、私に指導されたことに比べたらと思ったそうです。喜ぶべきか、否か？

私からすれば、何よりも母校でもない本校に足を運んでくれたことが一番の喜びです。

中間考査中の土曜日に、本年度駅伝西播地区予選が開催されました。本校は残念ながら参加することができませんでしたが、前日準備も含めて審判として参加する楽しみがあります。それは、スタート地点の赤松公民館には、卒業生のお祖母様がお勤めでいらっしゃるからです。一年に一度、お元気な姿を拝見することで、縁があった過去を呼び起こし、次の未来への励みにすることができるからです。

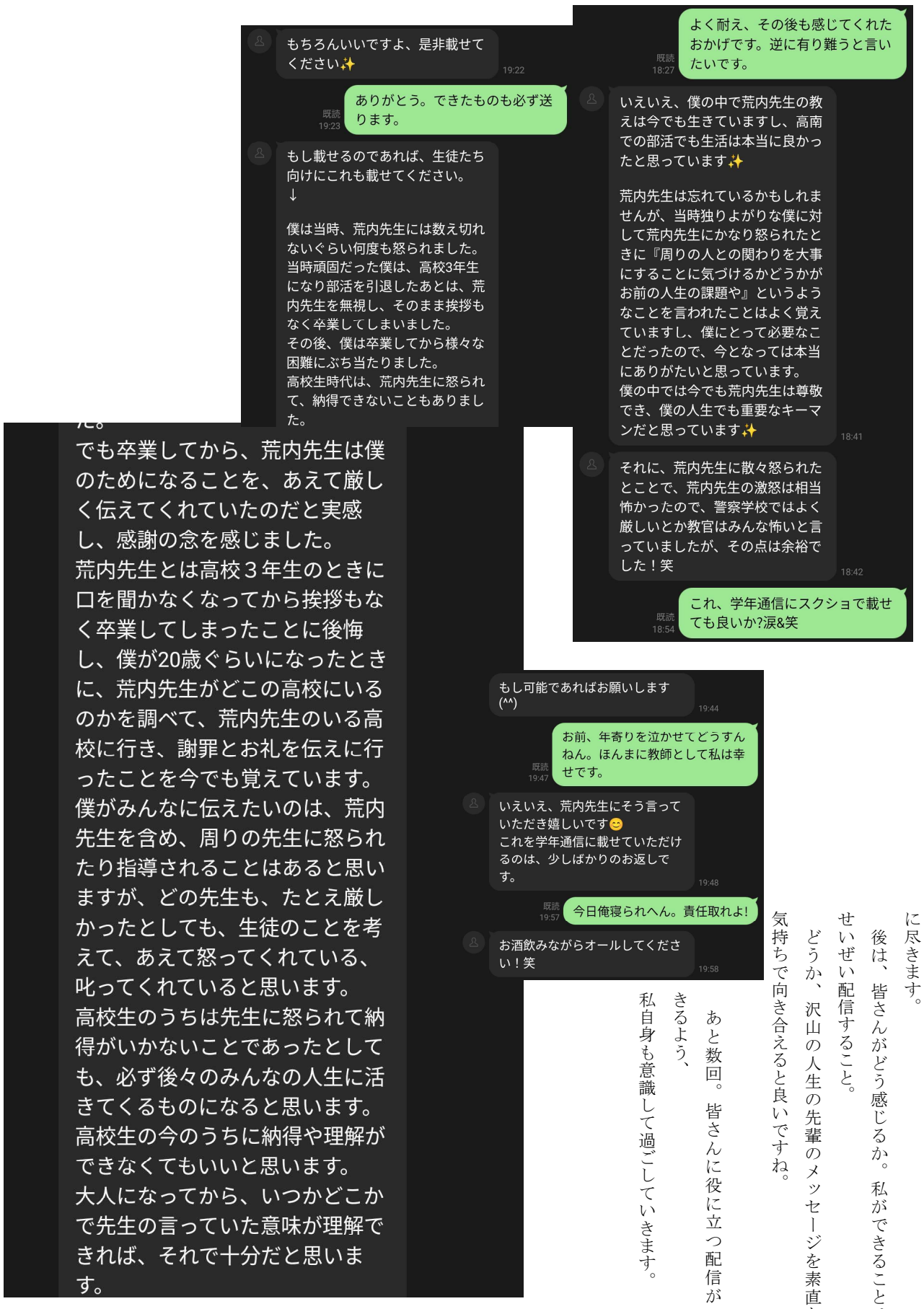
今年頂いたお言葉は、

「先生、覚えて下さっていて嬉しく思います。お互いに元気で頑張りましょう」

でした。次の目標は、

「先生の学校はどうですか？」

そうこうしていると、高砂南高校陸上競技部卒業生から、県駅伝男子の先導バイクの任を命ぜられたとの報を頂きました。そのやり取りの中で許せるならばと、次のメッセージを紹介します。



もちろんいいですよ、是非載せてください✨ 19:22

ありがとう。できたものも必ず送ります。 既読 19:23

もし載せるのであれば、生徒たち向けにこれも載せてください。
↓

僕は当時、荒内先生には数え切れないぐらい何度も怒られました。
当時頑固だった僕は、高校3年生になり部活を引退したあとは、荒内先生を無視し、そのまま挨拶もなく卒業してしまいました。
その後、僕は卒業してから様々な困難にぶち当たりました。
高校生時代は、荒内先生に怒られて、納得できないこともありました。
でも卒業してから、荒内先生は僕のためになることを、あえて厳しく伝えてくれていたのだと実感し、感謝の念を感じました。
荒内先生とは高校３年生のときに口を聞かなくなってから挨拶もなく卒業してしまったことに後悔し、僕が20歳ぐらいになったときに、荒内先生がどこの高校にいるのかを調べて、荒内先生のいる高校に行き、謝罪とお礼を伝えに行ったことを今でも覚えています。
僕がみんなに伝えたいのは、荒内先生を含め、周りの先生に怒られたり指導されることはあると思いますが、どの先生も、たとえ厳しかったとしても、生徒のことを考えて、あえて怒ってくれている、叱ってくれていると思います。
高校生のうちは先生に怒られて納得がいかないことであったとしても、必ず後々のみんなの人生に活きてくるものになると思います。
高校生の今のうちに納得や理解ができなくてもいいと思います。
大人になってから、いつかどこかで先生の言っていた意味が理解できれば、それで十分だと思います。

よく耐え、その後も感じてくれたおかげです。逆に有り難うと言いたいです。 既読 18:27

いえいえ、僕の中で荒内先生の教えは今でも生きていますし、高南での部活でも生活は本当に良かったと思っています✨

荒内先生は忘れているかもしれませんが、当時独りよがりな僕に対して荒内先生にかなり怒られたときに『周りの人との関わりを大事にすることに気づけるかどうかがお前の人生の課題や』というようなことを言われたことはよく覚えていますし、僕にとって必要なことだったので、今となっては本当にありがたいと思っています。
僕の中では今でも荒内先生は尊敬でき、僕の人生でも重要なキーマンだと思っています✨ 18:41

それに、荒内先生に散々怒られたとことで、荒内先生の激怒は相当怖かったので、警察学校ではよく厳しいとか教官はみんな怖いと言っていましたが、その点は余裕でした！笑 18:42

これ、学年通信にスクショで載せても良いか?涙&笑 既読 18:54

もし可能であればお願いします(^^) 19:44

お前、年寄りを泣かせてどうすんねん。ほんまに教師として私は幸せです。 既読 19:47

いえいえ、荒内先生にそう言っていただき嬉しいです😊
これを学年通信に載せていただけるのは、少しばかりのお返しです。 19:48

今日俺寝られへん。責任取れよ! 既読 19:57

お酒飲みながらオールしてください！笑 19:58

嬉しいのは、自分の想いを言うだけでなく、必ず今の生徒達に対して、「伝言」をしてくれること。

自分が感じて終わりではなく 自分の想いを、私を介して今の生徒達に託してくれることは、教師冥利に尽きます。

後は、皆さんがどう感じるか。私ができることはせいぜい配信すること。

どうか、沢山の人生の先輩のメッセージを素直な気持ちで向き合えると良いですね。

あと数回。皆さんに役に立つ配信ができるよう、私自身も意識して過ごしていきます。